

未来を拓く国語教育の創造

—評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり—

読むこと部会 研究主題

学びの質を高める、評価活動と指導の工夫

第4学年国語科学習指導案

単元名 和紙の世界～魅力を分かりやすくまとめよう～

学習材名 「世界にはこる和紙」(光村図書 4年「下」)

日 時:令和4年12月13日(火) 5校時

児 童:小金井第四小学校 第4学年2組 33名

指導者:小金井立第四小学校 主任教諭 田邊寿子

1 単元の目標

- 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。
(知識及び技能)
- ◎目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(思考力、判断力、表現力等)
- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。(思考力、判断力、表現力等)
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	○筆者の考えとそれを支える理由や事例、全体の構成や中心となる語など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	○和紙の良さを伝えることを意識して、適切な語や文を見付けて要約している。(C(1)ウ) ○和紙の良さについて書かれた文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 (C(1)オ)	○粘り強く、学習の見通しをもって、和紙の良さが伝わる言葉や文を見付けて要約し、分かりやすい文章にして伝えようとしている。

3 単元構想

(1) 児童について(児童観)

国語の書くことや話すこと、読むことの授業や宿題の自主学習ノートに漢字練習を意欲的に取り組む児童が多い。説明文を読むことについては、1学期に「アップとルーズで伝える」を学習した。ここでは、段落ごとにどのようなことが説明されているかを話題提示、筆者の主張、事例という用語を用いて捉えたり、段落内や段落同士で対比的に説明されていることを捉えたりしながら構成を考えることを中心に学習をした。要約することに関連する学習では、2学期に「思いやりのデザイン」を100字に要約してみた。決められた文字数に要約するために、具体的な事例を省いて話題や主張を中心に短くすることを学んだ。続いて3年生の教材「言葉で遊ぼう」も要約する学習を行った。この教材では、各段落の要点をまとめてから要約するという流れで学習したが、要点をまとめることが難しい児童も見られた。要点をつなげて要約する際にも、叙述を書き抜いたものをつなげて要約を終えている児童がほとんどだった。本学習材である「世界にほこる和紙」では、児童が交流し合いながら、要点のまとめ方を整理して要約の仕方や要約のポイントについてより広く、深く学んでいけるとよいと感じる。

(2) 学習材について(学習材観)

本学習材「世界にほこる和紙」は、多くの人に和紙のよさを知ってもらい、使ってほしいという筆者の思いが、双括弧で述べられた文章である。「初め・中・終わり」の構成で書かれ、「初め」と「終わり」には筆者の和紙に対する思いが繰り返して述べられている。「中」の部分では、筆者が考える和紙の「よさ」や「魅力」を伝えるため、和紙の「やぶれにくく長持ちする」という特長と、気持ちを伝える方法の一つとして和紙が使われてきたということが、複数の事例を挙げながら詳しく述べられている。

本学習材は、段落を分けて和紙の良さについて説明されていることから、段落の中心を捉えやすく、要点のまとめ方をもう一度整理するのに適している。また、「まず」「もう一つは」といった接続語が効果的に用いられていて、「中」の部分が大きく2つに分けられ、段落構成を児童自身で捉えやすいという特長がある。この特長を生かして、「用紙にはないよさ」と「自分の気持ちを表す方法の一つであること」という2つの観点に分けて要約することができる。観点に沿って目標の文字数に要約していくことができる本学習材は、初めて要約の仕方を学ぶのに適した教材といえる。

(3) 単元について(単元観)

4年生の児童はこれからますます文章量の多い読み物、読み取ることが難解な文章に出会いながら学習していく。また、日常生活や社会科見学、他教科の学習においても他者から聞いた情報の中心を捉えたり、資料、インターネットから自分の必要な情報を読み取って集めたりする場面がある。そうした場面において、要約する力が必要となる。そこで、本単元では、要約する力の育成に重点を置いて単元を構成した。

第二次では「世界にほこる和紙」の「中」の部分に分けて要約する。要約の手順やポイントを少しずつ学び、三次では、全体の構成を意識して文章全体を400字程度に要約する。二次で習得した要約しながら読む力を三次でも活用して学習することで、より焦点化した学びとなり、学びの質の向上につながる考えた。

単元の導入時には、「和紙の魅力」を家の方に伝えるという目的を意識させ、そのために、学習材を短く分かりやすくまとめたいという必要感をもたせたい。400字という量は、約2分でお家の人にお話できる量であることを伝え、目標とさせたい。目的を意識しながら、和紙の魅力が伝わるよう、中心となる語や文を見つけて要点にまとめ、要点をつなげて要約していく力を身に付けさせることを目指す。

本単元が終わった後には、他の伝統工芸品について調べて書く学習を予定している。ここでも要約する力を生かしながらも、構成を考える等の書くことの指導目標を中心にした単元を設定し、リーフレットにまとめる学習活動を行う。

4 研究主題に迫るために

多摩地区研究会読むこと部では、都小国研の主題を受け、自分で学習を進めることができる単元計画と、児童が主体的に学習に取り組むための評価活動の充実に重点をおいて研究を進めた。

(1) 本単元で深めていこうとしている学びの質について

本単元では、要約する目的を明確にして要約の必要性を実感させ、要約の手順を確かめながら目的に沿って学習材を要約する。手順を押さえて要約する中で、児童自身が工夫したり友達の工夫を見付けたりしたものを「要約のポイント」とし、それを学級で共有しながら、要約の仕方の定着を図る。そして、共有したことを基に要約した文章を読み直し、加除修正することでよりよい要約を目指していく、という学び方を習得させたい。

(2) 学びの質の向上を図る単元の工夫

①単元の目標と単元を通して身に付けさせたい力を設定した意図

本単元では、要点をまとめるという3年生の学習経験や、具体的な事例を省いて話題や主張を中心に短くまとめ、決められた字数で要約するという4年生のこれまでの学習経験を生かして、要約する中で気付いたことを「要約のポイント」として全体で共有し、ポイントを取り入れながら要約する力を身に付けることに重点を置いた。また、単元の中で要約に繰り返し取り組むことで要約の力を定着させることができると考え、学習材の「中」の部分の前後半に分けて要約することとした。前半部分の要約で手順を理解しながら要約し、友達と要約した文を読み合う中で気付いた「要約のポイント」を全体で共有する。その後、後半部分で改めて要約をし、前半部分の要約の際に身に付けたことを活用できるようにする。さらに、第三次では、第二次で身に付けたことを活用して全文を要約することで、本単元の目標を達成できるように単元計画を立てた。

本単元で身に付けさせたい力は以下の通りである。

- 要約の手順を理解し、目的に応じて自力で要約する力
- 要約する際に自身の気付きを確かめたり、友達の要約のよいところを見付けたりする力
- 要約した文章を読み合っ、気付いた要約のポイントを共有する力
- 共有したことを基に、自分の要約した文章を加除修正する力

②主体的、対話的で深い学びの視点での授業改善につながる工夫

本単元では、導入時に実際に和紙に触れる時間を設定し、児童が使い慣れている洋紙とは異なる風合いや趣のある色遣い、模様などの「和紙の魅力」に気付くことができるようにした。和紙の魅力を何となく感じ始めている状況で「和紙の魅力」について具体的に書かれている学習材と出合わせることで、「学習材を詳しく読みたい」「分かったことを誰かと共有したい」という思いを児童がもてるようにした。本単元では、「家の方に短時間で『和紙の魅力』について伝える。分かりやすく伝えるために、学習材の一部ではなく全体を要約する。」という学習の目的意識を第一次で児童が明確にもてるようにした。

要約の学習は、時として、「まず要点をまとめる。次に指定された文字数に合うように不要な部分を削る。」という機械的な作業になってしまう可能性が考えられるが、本単元では児童一人一人が「主体的な学び手」として学習に取り組めるように、次のような工夫を行った。

○既習の「学びの蓄積」を意識した学習活動の展開

児童自身が既習の学習経験で得た「要点のまとめ方」や「要約のおよその仕方」を振り返り、本単元でもその点を意識して、自身で見通しをもちながら学習に取り組むことができるようにした。

○共有を生かした「要約のポイント」の整理・深化

限られた文字数で要約するために、各段落の要点を基に中心となる語や文を見付けるとともに、不要な箇所は省いてまとめる必要性が生じる。要約した文章を児童相互で読み合う際に、中心となる語や文が記されているかを確認するだけでなく、分かりやすい文章にするためにどのように不要な箇所を省いたのかを確かめるように促すようにした。その中で、繰り返し出てくる言葉を一つにまとめたり、長い説明は短い言葉で置き換えたりするなどの

「要約のポイント」に気付けるようにする。そのことで、もう一度自分の文章を加除修正してより分かりやすく要約できるようにした。

(3) 評価活動の工夫

①「児童にどういった力が身に付いたか」という学習の成果をとらえる評価の工夫

本単元は、中心となる語や文を見付けて要約する力の育成を目指して構成されている。各段落の要点をまとめ、それを基に文章の中(③～⑨段落)の部分に要約する。中の前半(③～⑥段落)の要約は学級全体で指導しながら行い、後半(⑦～⑨段落)の要約は児童が主体的に要約を行うことで、中心となる語や文の選び方や接続語の使い方、児童が考えて置き換えた言葉に注目し、要約の力の変容を見取る。また、その際に、要約するときに必要なことを「要約のポイント」として一般化する。さらに第三次では、その「要約のポイント」を生かして、文章全体を要約してみることによって児童がそれを活用できるかも捉えていく。

②教師が指導の改善を図るための評価の工夫

第二次では、3年生で学んだ既習事項を生かして、段落ごとの要点をカードにまとめさせることとした。ここで要点をまとめることを出来ているかを見取る。その際、既習事項が身に付いていない児童には要点のまとめ方を確認したうえで、掲示物を使って要点のまとめ方を共有するようにする。一方、要約することは、段落の要点を繋げるだけではできない。そこで、実際に要約する中で、要点を繋げるポイントを児童に考えさせる。そして、児童から挙げられた「要約のポイント」をクラスで共有するようにしていく。

児童が自ら要約するポイントを見付け、中心となる語や文を落とさずに、字数に収まるように文章が書ければ、おおむね評価規準に達したとする。さらに、中心となる語や文を接続語を適切に用いて繋げたり、児童が置き換えた言葉が入っていたりすれば、十分評価規準に達したとする。第三次では、児童から挙げられた「要約のポイント」を用いてどの児童もよりよい要約ができるように働きかけていく。

③児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるための評価の工夫

児童が自分にどのような力が身に付いたのかを振り返り、自己評価する際には、既習の学習経験を基に学級全体で整理した「要約の手順」や本単元で学ぶ「要約のポイント」の視点を活用する。限られた字数で書かれていることを分かりやすく要約するためには、中心となる語や文を見付けて短くまとめたり言葉を置き換えたりしながらまとめる力が必要とされる。学習を振り返る際、自分が要約した文章を読み直し、「要約の手順」や「要約のポイント」の視点と照らし合わせて考えるようにすることで、どのような力が身に付いたのかを、児童自身で確かめられるようにした。

さらに、要約した文章を友達と読み合ったり学級全体で確かめたりした際に新たに発見した「要約のポイント」について児童自身が気づき、自分が書いた文章を加除修正したり、次時や次単元の学習に活用していかうと自ら学習を調整したりすることができるようにした。

5 単元計画(8時間)

過程 (次)	時	◇学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準★評価方法
一	1	1 和紙の実物を見たり、触ったりして、感じたことを話し合う。 2 無形文化遺産であることを知り、和紙の魅力は何かを予想する。 3 「世界にほこる和紙」を読み、和紙の魅力だと思う言葉を見つける。	○便箋やポチ袋など、本文に出てくるものを見せるようにする。 ○段落ごとにどんな魅力について書かれているのかを大まかに整理する。	
<p>本文に書かれている和紙の魅力を短く、分かりやすくまとめて、おうちの人にも伝えよう！</p>				
			○2分程度で魅力を伝えるために、原稿用紙1枚にまとめることを伝える。	
二	2	1 ①②段落の要点をまとめる。 2 第2段落の要点である「筆者が和紙をほこりに思う2つの理由」をもとに、本文の構成を大まかにとらえる。	○既習の要点のまとめ方を使って、考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">【要点のまとめ方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 和紙の魅力を伝える言葉や文を見つける。(中心となる語や文) 2 同じ意味の言葉を見つける。 3 どの言葉を使うかを決めたりつなげたりする。 4 なるべく短く、できれば一文にまとめる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>和紙をほこりに思い、多くの人によさを知ってほしい、使ってほしいと考えている。なぜなら①洋紙にないよさがあり、②自分の気持ちを表す方法の一つだから。</p> </div> ○「中」の部分の接続語「まず」「もう一つ」を手がかりにして、「中」の部分に主張を支える2つの理由が書かれていることに気付かせる。	
	3	1 ③～⑥段落を読み、「洋紙にないよさ」についての要点をまとめる。 2 まとめた要点を見て、段落の役割を整理する。	○既習の 要点のまとめ方 を使って、考えさせる。 ○段落相互の関係を整理することで次回の要約につなげる。	◆【知・技】 筆者の考えとそれを支える理由や事例、全体の構成や中心となる語など情報と情報との関係について理解している。

<p>4</p>	<p>1 要点をもとに③～⑥段落を要約する。(100字)</p> <p>2 要約した文を読み合う。</p> <p>(1) 見つけたよいところを発表し、全体で価値を共有する。</p> <p>(2) 自分の要約を読み返し、加筆修正する。</p>	<p>○要約の手順をもとに100字を目標にして要約文を書かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【要約の手順】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 要点を何度も読む。 2 残すところ、削るところを考える。 3 文と文のつなぎ方を考えながら文章にする。 4 おうちの人に伝わるか意識して、書いた文章を読み返す。 5 訂正をする。 6 完成した文章をもう一度読む。 </div> <p>○友達の要約した文章のよいところを探しながら読むように伝える。</p> <p>○児童が見つけたよいところを、要約のポイントとしてまとめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【児童が見つけると予想される要約のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示語を使って繰り返しを避ける。 ・順番を変える。 ・短い言葉に言い換える など </div> <p>○加筆修正の仕方を確認する。</p>	<p>◆【思・判・表】</p> <p>和紙の良さを伝えることを意識して、適切な語や文を見付けて要約している。</p> <p>★原稿用紙</p> <p>【主】</p> <p>粘り強く、学習の見通しをもって、和紙の良さが伝わる言葉や文を見つけて要約し、分かりやすい文章にして伝えようとしている。</p> <p>★発言・観察</p>
<p>5</p>	<p>1 ⑦～⑨段落を読み、「和紙は、自分の気持ちを表す方法の一つであること」についての要点をまとめる。</p> <p>2 まとめた要点を見て、段落の役割を整理する。</p>	<p>○既習の要点のまとめ方を使って、考えさせる。</p> <p>○段落相互の関係を整理することで次回の要約につなげる。</p>	<p>◆【知・技】</p> <p>筆者の考えとそれを支える理由や事例、全体の構成や中心となる語など情報と情報との関係について理解している。</p> <p>★ノート</p>

<p>6 本 時</p>	<p>1 要点をもとに⑦～⑨段落を要約する。(100字)</p> <p>2 要約した文を読み合う。 (1) 見つけたよいところを発表し、全体で価値を共有する。</p> <p>(2) 自分の要約を読み返し、加筆修正する。</p>	<p>○要約の手順をもとに200字を目標にして要約文を書かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">【要約の手順】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 要点を何度も読む。 2 残すところ、削るところを考える。 3 文と文のつなぎ方を考えながら文章にする。 4 おうちの人に伝わるか意識して、書いた文章を読み返す。 5 訂正をする。 6 完成した文章をもう一度読む。 </div> <p>○友達のを要約した文章のよいところを探しながら読むように伝える。</p> <p>○児童が見つけたよいところを、要約のポイントとしてまとめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">【児童が見つけると予想される 要約のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体例をおおまかな言葉に言い換える。 ・順番を変える。 ・短い言葉に言い換える ・選ぶ言葉や文が違っても、和紙の魅力が伝わる要約になればよいなど </div> <p>○前半の部分と合わせて読み返し、全体を通して加筆修正をしてもよいことを伝える。</p>	<p>◆【思・判・表】</p> <p>和紙の良さを伝えることを意識して、適切な語や文を見つけて要約している。</p> <p>★原稿用紙</p> <p>【主】</p> <p>粘り強く、学習の見通しをもって、和紙の良さが伝わる言葉や文を見つけて要約し、分かりやすい文章にして伝えようとしている。</p> <p>★発言・観察</p>
<p>三</p>	<p>7 1 10段落の要点をまとめ、全部の要点の関係から構成を整理する。</p> <p>8 1 「世界にほこる和紙」の全文の要約をする。</p> <p>2 和紙について考えたことを書き加える。</p> <p>課外 家の方に和紙の魅力を伝え、感想をもらう。</p>	<p>○段落相互の関係を見ながら、全文を要約するための軽重を考えさせる。</p> <p>○二次で学んだ要約の手順やポイントを使って要約するように伝える。</p> <p>○伝えた後に、家の方にカードに感想を書いてもらうようにする。</p>	<p>◆【知・技】</p> <p>筆者の考えとそれを支える理由や事例、全体の構成や中心となる語など情報と情報との関係について理解している。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>和紙の良さについて書かれた文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。</p> <p>★原稿用紙</p>

6 本時の学習

(1) 本時のねらい

目的を意識して、中心となる語や文を見付け、⑦～⑨段落を要約することができる。

(2) 本時の展開

学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準★評価方法
1 前時までの学習を振り返り、⑦～⑩段落の要点を読み直す。 2 学習のめあてを確認する。	○「自分の気持ちを表す方法としての和紙のよさ」を考えながら、要点を読み直すように伝える。	
お家の方に和紙の魅力が伝わるように、⑦～⑨段落の要約をしよう。		
3 要点をもとに⑦～⑩段落の要約をする。(100字程度)	○ 要約の手順 をもとに100字を目標にして要約文を書かせる。	◆【思考・判断・表現】
	【要約の手順】 1 要点を何度も読む。 2 残すところ、削るところを考える。 3 文と文のつなぎ方を考えながら文章にする。 ----- 4 おうちの人に和紙の魅力が伝わるか意識して、書いた文章を読み返す。 5 直す。	和紙の良さを伝えることを意識して、適切な語や文を見付けて要約している。
	○早く終わった場合は、4、5、6に取り組むように促す。	★原稿用紙
4 要約した文章を読み合い、要約の技を見付ける。	○友達の要約文に、どのような要約の技が使われているか、どのような言葉を選んでいるかという視点で読むように伝える。	
5 見つけた要約のポイントを全体で共有する。		◆【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く、学習の見通しをもって、和紙の良さが伝わる言葉や文を見つけて要約し、分かりやすい文章にして伝えようとしている。
【予想される要約のポイント】 ・言葉の順番を替えている。 ・違う言葉に言い換えて短くしている。 ・つなぎ言葉を入れて分かりやすくしている。 など		
6 自分の要約を読み返し、加筆修正をする。	○要約のポイントを踏まえて加筆修正するように伝える。	★観察・発言
7 本時の学習を振り返る	○わかったことやできたことを振り返り、次の時間に意欲をもたせる。	

7 資料

【要点のまとめ方】

- 1 和紙の魅力を伝える言葉や文を見つける。(中心となる語や文)
- 2 同じ意味の言葉を見つける。
- 3 どの言葉を使うかを決めたりつなげたりする。
- 4 なるべく短く、できれば一文にまとめる。

【要約の手順】

- 1 要点を何度も読む。
- 2 削ってもよい言葉を探す。
- 3 文と文のつなぎ方を考えながら文章にする。
- 4 おうちの人に和紙の魅力伝わるか(目的)を意識して、書いた文章を読み返す。
- 5 訂正をする。
- 6 完成した文章をもう一度読む。

【児童が見つけると予想される 要約のポイント】

- ・言葉が繰り返し出てくる場合は削ったり、まとめたりする。
- ・具体例をおおまかな言葉に言い換える。(具体→抽象)
- ・順番を変える。
- ・短い言葉に言い換える
- ・つなぎ言葉を入れて分かりやすくしている。

要約することに関する単元の位置づけ

3年

『すがたをかえる大豆』・・・話題と事例の書かれ方を捉えて読む。



4年1学期

『思いやりのデザイン』『アップとルーズで伝える』・・・文章構成や段落どうしの関係を確認、筆者の考えを捉える。
「要約するとき」・・・要約とは何か、要約の方法を知る。



4年2学期

『世界にはほこる和紙』・・・まとめごとを中心に中心となる語や文を確認、要約する。



4年3学期

『ウナギのなぞを追って』・・・興味をもったことを中心に要約し、文章に対する感じ方の違いやよさを考える。



5年

『固有種が教えてくれること』・・・文章以外の資料を用いた効果を考えながら読む。